

西濃教育事務所 令和7年度 総合的な学習の時間 訪問指導の観点

令和6年度の訪問指導より

- ・評価について・・・「探究的な学習の過程のイメージ」をもった指導計画を作成し、学習過程を探究的にしている実践がみられた。その一方で、未だ「前年踏襲」「活動ありき」の指導計画と思われる事例もあり、学校間、教師間（経験年数の浅い先生が総合主任等）格差がある。
- ・資質・能力の育成・・・指導計画の中に育みたい資質・能力が明記されており、単位時間の役割が明確になっている。その一方で、個々の児童生徒に資質・能力が育成されているかの見届けが十分でなく、指導改善に生かしているかという点では、さらなる改善が必要である。
- ・主・対・深の学びと ICT 活用・・・個別最適な学び、協働的な学びを一体的に充実した学習となっている実践が見られた。その際、児童生徒が積極的にICTを活用している場面が多くあった。教師主導、一斉授業型のみでとり行われる総合学習となっている事例が多くある。



◇令和7年度の訪問指導の戦略

テーマ【自ら課題を立て、探究的な学習が一層充実する総合的な学習の時間の指導・助言】

(1)「探究的な学習のイメージ」をもった指導計画の作成及び指導の実施

- ・児童生徒による主体的で粘り強い問題の解決や探究活動を生み出すには、児童生徒の関心や疑問を重視し、適切に取り扱うことが必要であることを伝える。
(テーマ及び指導計画が見直されず、前年までの実践を踏襲している学校が多い。また、「花壇づくり」「鼓笛」など、特別活動と混同した学習内容が位置付けられていることもみられる。)
- ・教育目標を踏まえた、総合的な学習の時間の目標の設定「総合的な学習の時間の目標は、学校の教育目標と直接的につながるとい、他教科等にはない独自の特質を有する」(小学校学習指導要領解説 p23)＝各学校で指導計画を作成するという意義を伝える。

(2)育みたい資質・能力に基づいた「指導と評価の一体化」

- ・「児童生徒の学習状況に応じた教師の適切な指導を行うこととは、(中略)各学校で定めた総合的な学習の時間の目標及び内容に基づいて、育成を目指す資質・能力が身に付いているのかを継続的に評価しながら、より質の高い資質・能力の育成に向けて自立的な学習指導単元の実践を振り返り～」(解説p47)に基づき、教師の指導改善を図ることを伝える。

(3)探究的な学習の過程を質的に高めていく「個別最適な学び・協働的な学びの一体的充実」

- ・「総合的な学習の時間においては、探究的な学習の過程を質的に高めていくことを心掛けなければならない。そのために配慮する必要がある三つのことを示している。」(解説 p48)
 - ①他者と協働して課題を解決しようとする学習活動
 - ②言語により分析し、まとめたり表現したりする学習活動
 - ③「考えるための技法」が活用されるようにする

①～③のことを実際の授業で行うことで、「個別最適な学び・協働的な学びの一体的充実」が図られることを伝える。その際に、「今、求められる力を高める総合的な学習の時間の展開」(令和3年3月文部科学省)を提示し、具体的なイメージをもてるようにする。